

令和3年11月

霜

月

あ お ぞ ら

鹿屋市青少年育成センター

第369号

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「子どもに直接的な体験活動の推進を」

鹿屋市立串良小学校 校長 福留 憲一

直接的な体験活動には、生活体験（遊び・手伝い・家庭や地域での年中行事への参加等）、自然体験（山や川、海等での活動等）、社会体験（地域でのボランティア活動、職業体験、異年齢での交流体験等）などの主に3つに分けられると考えられます。

これらの活動を年齢（発達）段階で適切に体験させることで子どもはよりよく成長すると思われ

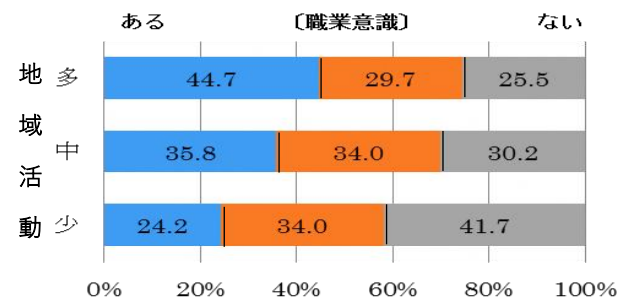
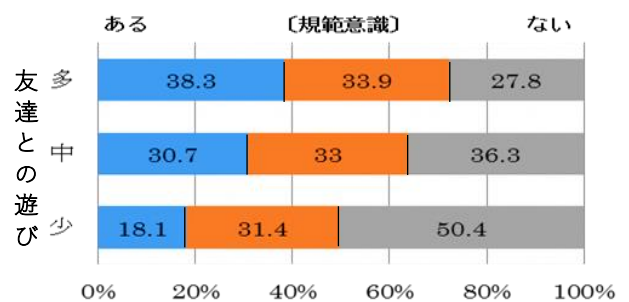
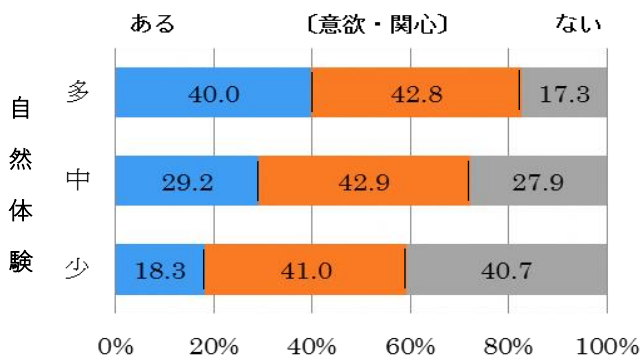
ます。様々な直接的な体験をすることにより「体験の力」（自尊心、共生感、意欲・関心、規範意識、職業意識、人間関係能力、文化的作法・教養）が向上するといわれています。

特に、小学校高学年から中学生の時期に、いかに学校外での多様な活動を豊富に実践するかで、その後の生き方にも大きく影響を受けることが各種の調査で明らかになっています。（※1）

勉強や習い事等もちろん大事ですが、地域での活動（子ども会活動・地域行事への参加・参画、伝統文化の継承、異年齢での交流等）や家事手伝いなどに、意図的に取り組ませることが大切だと思

います。（※1） 体験量と「体験の力」の関係（子どもの体験活動の実態に関する調査研究〔H22.10〕より）

※ グラフの見方…例えば、自然体験が多いほど物事に対する意欲・関心が高く、少ないと低いということが分かる。



主な質問項目

【意欲・関心】

- ・ もっと深く学んでみたいことがある。
- ・ 経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい。

【規範意識】

- ・ 交通規則など社会のルールは守るべきだと思う。
- ・ 電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う。

【職業意識】

- ・ 自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある。
- ・ できれば社会や人のためになる仕事をしたいと思う。

豊富な体験を積んだ子どもほど、意欲や関心が高まり、学力向上にもつながります。間接的な体験である読書活動などとも絡めて、家庭だけでなく、地域全体で子育て・青少年育成に取り組む環境をつくっていく必要があると思っています。

各家庭や地域への啓発を図るとともに、地域の子ども会活動等を活性化させるために知恵をしばることが最も大事だと思っています。（休止中のところは範囲を広げて再結成させたり、小さい子ども会を統合させたりするなど。）